



若杉正清副院長

# 医療

## 最前線

県立中央病院から  
〈277〉

進行すると、透析につながる慢性腎臓病の患者数は成人の8人に1人とされる。この「新たな国民病」に対して近年、進行を遅らせたり、進行時に現れる異常を抑えたりする薬が続々

減少が期待できる」と話す。若杉医師によると、慢性腎臓病は尿タンパクなどの腎臓の異常や腎機能の低下が3カ月を超えて続く状態を指す。放置すると、腎不全となって透析につながる

だけでなく、心筋梗塞や脳卒中といった心臓や血管の病気を合併する危険性が高い。治療としては、運動などの生活習慣改善、食事療法、薬物療法が挙げられる。こ

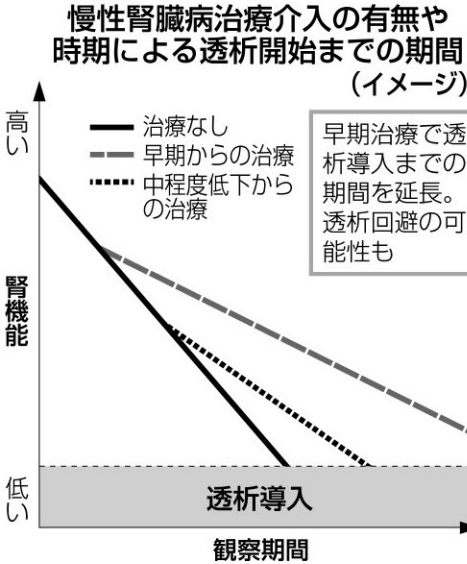
のう、薬物療法は1990年代にRA系阻害薬が慢性腎臓病の進行を遅らせることが報告され、標準治療として用いられてきた。RA系阻害薬の登場以降、腎臓病領域では新たな

が貧血に対する新たな治療薬。飲み薬のため、従来の注射薬に比べて使いやすくなった。また、合併症の一つである高カリウム血症に対する新薬もある。既存薬にはおなが張ったり便秘になったりする副作用があったが、新薬にはなく、患者の負担軽減につながるという。

### 慢性腎臓病 新薬が続々登場

### 早期診断・治療で透析回避

早期治療で透析導入までの期間を延長。透析回避の可能性も



薬が誕生していなかった。近年になって承認されたのが「SGLT2阻害薬」と「選択的MR拮抗薬」。いずれも尿タンパクを減少させ、腎機能低下を抑える効果が認められている。末期腎不全手前の「ステージ4」までの患者が対象となるため、早期治療が必要となる。慢性腎臓病によって引き起こされる異常を抑える薬も登場している。その一つ